



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ推進ニュース —介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう!—

署名20万筆達成まで、あと62,172筆!

—署名目標の引き上げを検討し、もう一踏ん張りしよう—

8月11日現在の到達137,828筆

青森2,112筆 奈良2,332筆 岡山2,425筆 徳島4,441筆 鹿児島3,103筆

社会福祉法人千葉勤労者福祉会の介護ウェーブの取り組み(千葉)



福祉会では、6月18日管理会で介護ウェーブの取り組みの方針・体制を決め、6月25日の主任・管理者研修で「医療・介護再生プラン」学習と法人の介護ウェーブ推進体制・方針の提起を行いました。

全事業所が、①介護職員が自らの問題としてこの運動に取り組む、②1職場1事例に取り組む、③8月末までに1000筆の署名をみつめる、以上3点を目標に取り組みを開始し、推進体制確立から1ヶ月余が経過した今、全事業所が署名に取り組み、8月末1000筆の目標を前倒しで(8月4日1021筆)達成することができました。

デイサービスセンターからたちでは、全職員が自分の言葉で朝のお迎えの時に利用者さん・ご家族に「介護署名」を訴え、夕方お送りするときに回収するやり方でいち早く160筆の署名を集めました。

グループホームひまわりでは、運営推進会議で利用者さんのご家族や民生委員さんをお願いするとともに、千葉市グループホーム連絡会で知り合った他の事業所の所長さんにお手紙や直接手渡しするなど、周りへの広がりをつくっています。

ヘルパーステーションなのはな幕張事業所、二和事業所の両事業所では、まずは大勢の登録ヘルパーさんに協力を求め、身近な所を固める作戦。

本部では、友の会の集まりや、からたち地域交流室を利用される方々、事務所を訪れる方々、業者さんなどにあらゆる機会に署名を依頼しています。

今後、1事業所1事例の取り組みを強めると同時に、他事業所への協力要請などで介護ウェーブを更に大きくしていきたいと思えます。

○千葉健生病院健康友の会「医療介護再生プラン」学習会(8月8日)で介護ウェーブの訴え

千葉健生病院健康友の会の「医療介護再生プラン」の学習会が、まくり生活福祉センターからたちの地域交流室で行われました。

冒頭、社会福祉法人千葉勤労者福祉会「介護ウェーブ推進本部長」の加瀬博之氏(デイサービスセンターからたち施設長)が、介護ウェーブの取り組み、署名の協力等を訴えました。

学習会の講師は県連秋元稔事務局長です。

(2008.08.04 千葉民医連 奥田氏より)



★事例ファイル episode no.07

「生活が苦しく必要なサービスが利用できない」

○性別：男性 ○年齢：76歳 ○家族構成：夫婦のみ ○要介護度：要介護3
○現在利用している介護サービス：訪問看護、通所系サービス、福祉用具

【介護サービスの具体的な利用状況について】

デイケア（週1回）、福祉用具（ベッド）、訪問看護（週2回）利用中。年金月7万円。娘さんより仕送り援助もらい（月5万円ほど）生活をしている。家は借家で家賃が月4万円と生活が苦しく、介護サービスの利用が十分にできない。

【本人の身体状況、具体的な困難や生活上の支障について】

肺気腫でHOT施行、障害3級、脳梗塞、ほぼ寝たきり、食事、排泄にはほぼ全介助状態。同年代の妻が1人介護をしている。十分な介護ができず、ほぼ寝かせきり状態。こまめに介助し、動く機会を作ることでもっとADLが改善すると思われるが、利用料金の支払が困難なため、サービスを最低限しか利用できず、寝たきりになっている。

【制度に対する問題意識や、改善が必要と考えられる点】

所得の格差が、必要なサービスを受けることができない介護の格差を生み出している。

★事例ファイル episode no.08

「認知症ってどうして介護度が低いの？」

○性別：女性 ○年齢：72歳 ○家族構成：夫婦のみ ○要介護度：要介護3
○現在利用している介護サービス：訪問介護、通所系サービス

【介護サービスの具体的な利用状況について】

週3回、認知症通所介護を利用。認知症が進み1人で家にいる事が出来ず、通所を週4回に増やし、迎えまでの間、ヘルパーを導入して見守りをおこなった。

【本人の身体状況、具体的な困難や生活上の支障について】

ADLには問題がないが、アルツハイマーの症状が進行し、何をするにも指示や見守りが必要で、常時目が離せず、一人で家にいる事が出来ない。

サービスを追加すると限度額オーバーになってしまう。それでも妻は働かなくてはならないため、自己負担が出てもサービスを希望された。

変更申請で要介護2→3になっただけで、早朝のヘルパーを出来れば利用したかったが、30分が限度。それ以上の時間を利用しようとするとう限度額を超えてしまう。そのため、全く一人になる時間をなくせない。

【制度に対する問題意識や、改善が必要と考えられる点】

重症の認知症になると、介護するほうもかなりのストレスとなり、サービスをフルに使う必要がある。しかし、現実には認知症対応型通所介護は利用料が高い。介護度も認知症だけではあまり重く出ることがなく、十分なサービスが利用できない。

お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp